

新潟県立植物園

植物園だより

展示

企画展示（観賞温室第2室）

- 2月5日(日)まで「アザレア展」
- 2月8日(水)～3月4日(日)「洋ラン展」
- 3月7日(水)～4月8日(日)「チューリップ展」

住宅内展示（観賞温室第3室）

- 1月22日(日)まで
「フラワーアレンジ展～春を呼ぶ花々～」
出展：(株)白木蓮(アトリエSylvian)
- 1月24日(火)～2月12日(日)
「植物園友の会写真展—23年度観察会の記録—」
出展：新潟県立植物園友の会
- 2月14日(火)～3月4日(日)
「新潟工科専門学校園芸デザイン科
～学生の考えた新しい公園の提案～」
出展：新潟工科専門学校園芸デザイン科
- 3月7日(水)～3月25日(日)
「野の花の水彩画展」
出展：外山康雄
- 3月27日(火)～4月15日(日)
「和紙ちぎり絵展」
出展：中村澄子和紙ちぎり絵教室

その他展示（観賞温室第3室2階）

- 1月2日(月)～1月22日(日)
「斑入りヤブコウジ展」
- 3月7日(水)～11日(日)
「花の新品種inにいがた2012」
(主催：食と花の世界フォーラム組織委員会、新潟県立植物園)
※新潟市の生産者が栽培する様々な植物や、
県内で改良された植物が大集合!

3月9日(金)～11日(日)



新潟市内各地で行われる春の5つの花イベント「花の新品種inにいがた2012」「チューリップ展」「日本ボケ展」「フラワーウェーブ新潟2012」「春花・舞花」がコラボレーション!各会場で春一番の花三昧な時間をお過ごしください。

※詳しくは4ページをご覧ください

教室

花と緑の教室

会場(または集合場所):花と緑の情報センター

※要申込(開催日の1カ月前から)

- 1月22日(日)「植物園花散歩⑨ アザレア」
時間:10:00～11:30
講師:倉重祐二(植物園副園長、「趣味の園芸」講師)
参加費:無料
※季節ごとの温室や園地の見どころをご案内します
- 2月12日(日)「ボトルフラワーをつくろう」
時間:10:00～11:30
講師:櫛舎道子(Plink&Plonk)
参加費:800円
- 2月19日(日)「洋ランを咲かせるコツ」
時間:10:00～11:30
講師:細川傳一郎(細川洋蘭農園)
参加費:無料
- 3月11日(日)「植物園花散歩⑩ 新潟の新品種」
時間:10:00～11:30
講師:倉重祐二(植物園副園長、「趣味の園芸」講師)
参加費:無料
- 3月18日(日)「植物園花散歩⑪ チューリップ」
時間:10:00～11:30
講師:永井明子(植物園スタッフ)
参加費:無料
- 3月29日(木)「植物園花散歩⑫ 早春の雑草」
時間:10:00～11:30
講師:田中良明(植物園スタッフ・樹木医)
参加費:無料

熱帯植物ガイドツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増!ツアーに参加された方には記念写真プレゼントもあります。

- ①10:40～ ②14:40～
(土・日・祝日は13:40から実施)
当日温室発券カウンターにて受付・定員制

花と緑の相談コーナー

専門相談員がわかりやすくお答えします。来園のほか電話、FAX、電子メールでもお気軽にお問い合わせ下さい。

専用ダイヤル 0250-24-6437
受付日:水曜・日曜 10:30～15:00

●観賞温室利用案内

開館/9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、
高校生・学生300円(要学生証提示)、小中学生100円
※土日祝日は小中学生の入館料無料

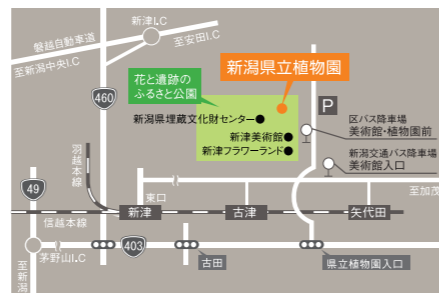
●観賞温室開館カレンダー(●休館日)

1	2	3
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
① 2 3 4 5 6 7	・ ・ ・ 1 2 3 4	日 月 火 水 木 金 土
8 9 10 11 12 13 14	5 6 7 8 9 10 11	4 5 6 7 8 9 10
15 16 17 18 19 20 21	12 13 14 15 16 17 18	11 12 13 14 15 16 17
22 23 24 25 26 27 28	19 20 21 22 23 24 25	18 19 20 21 22 23 24
29 30 31	26 27 28 29	25 26 27 28 29 30 31

※新年は1月2日から開館します。

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
J.R./信越線古津駅から徒歩約25分
バス/区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き
「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田」経由白根・湯東営業所」行き
「新津美術館入口」下車徒歩約10分

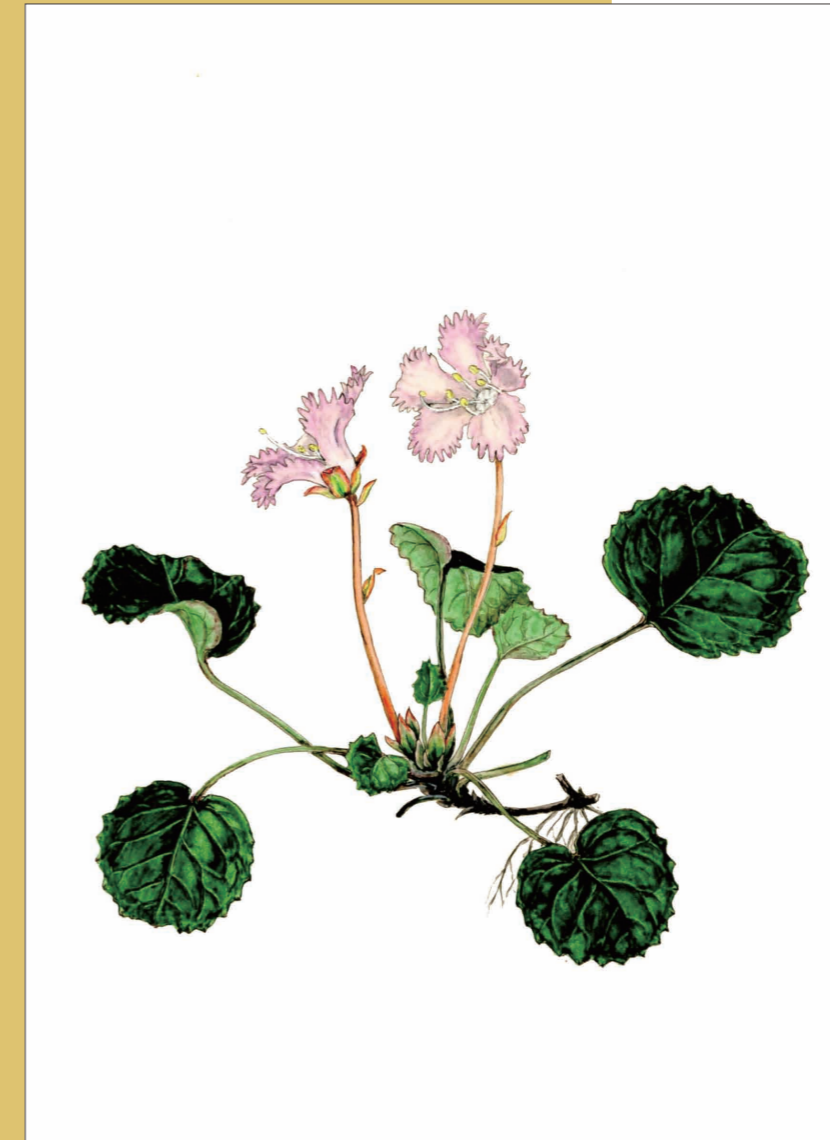


新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑花センターグループ



S56.4.10 荒川町産 富樫信平画



イワウチワ
Shortia uniflora

〈イワウメ科〉

本州中部を中心にして低山帯から高山に近い深山の林中または岩場などに群生する常緑多年草。早春山歩きをしていると、時々山の斜面の上部や峯筋の少し湿り気のある所に大群落に出会うことがある。花どきは実に見事である。

地下茎はやや硬く細く、よく枝分れして地上をほう。先は少し立ち上り葉を数枚そう生する。

葉は円形又は卵円形、長い葉柄がある。葉身は径2～9cm、波状の歯がある。基部心形、厚くて硬く光沢がある。先は円いが少し凹みがある。このような葉の形が扇に似ていて、岩場に生えるのでイワウチワ(岩団扇)という和名が付けられた。 解説:富樫信平(抜粋)





洋ラン展

平成24年
2|8(水)–3|4(日)

企画展示

好評をいただいている洋ラン展も今回で3回目を迎えます。今年度も観賞温室第2室と熱帯植物ドームを使った豪華で華やかな展示を行います。

第2室では、県内各地の洋ラン愛好会から週替わりで華やかな洋ランを多数出展していただきます。また、熱帯植物ドームの熱帯植物の中で咲く洋ランは、まるで自生地に行った様な雰囲気を楽しむことができます。新潟県立植物園ならではの展示です。

美しくありながら育てるのが難しいと言われるラン。栽培上級者はもちろん、これから育ててみたい方にもお楽しみいただけるよう、洋ランの栽培の歴史や基本的な育て方も紹介するなど、より一層洋ランを身近に感じられる展示となります。皆様のご来園をお待ちしております。

熱帯植物ドームでの展示



メイン会場には洋ランがいっぱい

企画展示

チューリップ展

平成24年
3|7(水)–4|8(日)

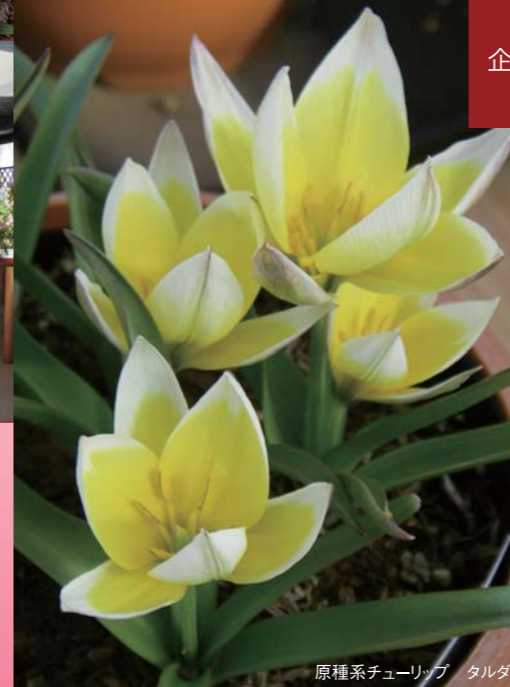


一足早い春の訪れを感じさせるチューリップ展を今年も開催します。明るく照らす日差しとチューリップの鮮やかな花色は、冬の間沈みがちな気持ちを明るく、元気にしてくれます。

今回の展示では、新潟県の花チューリップの品種や春の草花をフラワーショップ風に展示して、ショッピングを楽しんでいるような気分が味わえます。もちろん、植物園ならではの珍しい原種系チューリップや新潟県の新品種も大集合!

新潟県は古くからの花き産地で、現在でもチューリップなどの球根植物や花木が栽培されています。当園でこれまで調査を行った新潟県の園芸の歴史や、植物の解説も行います。「楽しんで、学ぶ」、植物園のチューリップ展へ足を運んでみませんか。

チューリップ展も会場の一つとなる「春一番、にいがた花三昧。」(p.4参照)も開催されます。花三昧な春の新潟をお楽しみに。



原種系チューリップ タルダ



パキラの花



果実はこんな形



種子はカイエンナットと呼ばれる

園内
ウォッチング

温室●巨大観葉植物!?

この植物、一見なじみのない植物のようですが、観葉植物の中でも育てやすい「パキラ」といえば、お分かりになる方も多いのではないのでしょうか?

こんなに大きくなった木は植物園の温室でないと見られないので、お客様は「これがパキラ!？」と驚かれます。確かに家でパキラを育てても花や実がつくイメージはないですね。

熱帯植物ドームでは、多数の雄しべが上向きに開いた、大きなブラシ状の花を咲かせますが、2、3日で落花してしまいます。その後、堅さも大きさも拳くらいの実を鈴なりにつけます。実は見事なほど綺麗に5つに割れ、中には綿のような繊維に守られている種子が15個ほど詰まっています。この種子はカイエンナットと呼ばれます。それを植えるとまた新しいパキラが誕生!!

皆さんもぜひパキラを買って、栽培にチャレンジしてみたい方はいかがでしょうか?大きく育てると新しい発見があるかもしれません。(桐生綾香)

園内
ウォッチング

園地●冬の園地観察

年明けから温室の中は人気の「アザレア展」で花盛りです。園地には雪が降り積り人気もまばらになりますが、寒風にも負けず朝早くから散歩を楽しむ方々の姿も見受けられます。

寒がひときわ厳しい季節のお勧めは、晴れた日の雪景色です。早朝、青空と木々に積った白い雪を従えた温室群が陽光を跳ね返す姿には一見の価値があります。防寒着と長靴に身を包み、誰の足跡も無い真っさらな新雪に向かって踏み出せば気分爽快です。

1月中であればナナカマドの赤い実がいつそう映えて見えます。2月に入るとマンサクやロウバイの花が咲き始め、ボタンの芽が急に膨らみ始めるのもこの頃です。気温が上がり雪が解けた晴天の日には、オオイヌフグリの花が咲き出します。昨年は4月に開花したカンヒザクラも例年であれば3月20日前後に深紅の花弁を見せ始めます。冬の晴れ間には小さな春の兆しを探すと楽しみがありますので、冬の園地観察をお勧めします。(田中良明)

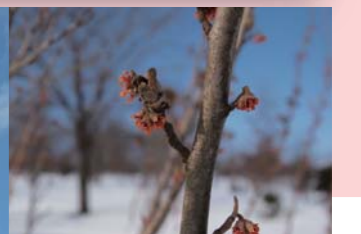
※雪の下になっている植物や、危険な箇所もありますので園路以外は歩かないようにお願いします。



カンヒザクラの蕾



ナナカマド



ペニバナマンサク



ソシンロウバイ



NEWS 1

平成24年度 「県立植物園ボランティア」新規募集

植物園では、植物の管理作業、展示の解説、資料整理などの業務をボランティアスタッフにお手伝いいただいています。植物の管理を行う「栽培ボランティア」は、花壇の花植えや除草、園内に2,000株あるボタンのコレクションの管理、イベント時に園内を装飾するプランターの寄せ植えづくりなど季節に合わせた作業を行っています。また、植物園の貴重な資料である標本づくりを行う「標本作製ボランティア」、おもに観賞温室の植物、展示についての解説を行う「展示解説ボランティア」のスタッフも活躍しています。

平成24年4月からの活動に参加できるスタッフを募集します。応募資格は特にありません。健康で、植物が好きな方であればどなたでも参加できます。活動への参加を希望される方は、説明会に参加し、登録していただく必要があります。

3月に説明会を行いますので、当園までお電話で申し込みください。(林 寛子)

説明会

日時:平成24年3月15日(木)、18日(日)

両日とも13:30から1時間程度

会場:花と緑の情報センター2階 研修室



植物管理の様子

ダブルファンタジープロジェクトに協力してフリージアの球根を植えつけ



きれいに開花

NEWS 2

平成24年3月9日(金)～11日(日)



新潟の冬が終わり、待ち遠しい春をむかえた3月には、様々な会場で花のイベントが開催されます。そこで、新潟市内で行われる4つの春の花イベントを同時期に開催することで、県内外の多くの方に新潟の花を楽しみながら知ってもらいたいと始められたイベントが「春一番、にいがた花三昧。」です。植物園からも多くの方へ「新潟の花の魅力」を発信したいと思います。

当園で開催される「チューリップ展」と「花の新品種inにいがた2012」、うららこすどの「第35回日本ボケ展」、新潟ふるさと村の「フラワーウェーブ新潟2012」を中心に、今年度オープンした新潟市食育・花育センター、秋葉区の花夢里にいつと新津フラワーランドなどの協力も得ながら、今年は5施設を会場としたスタンプラリーを開催します。また、これら施設を結ぶシャトルバスも運行します。詳しくは、ホームページをご覧ください。<http://niigata-hanazukan.net/hanazanmai/>

(永井明子)



チューリップ展/平成24年3月7日～4月8日 会場:新潟県立植物園(写真はすべて昨年の様子です)



第35回日本ボケ展/平成24年3月2日～3月11日 会場:うららこすど



花の新品種inにいがた2012/平成24年3月7日～3月11日 会場:新潟県立植物園



フラワーウェーブ新潟2012/平成24年3月9日～3月11日 会場:新潟ふるさと村

3月は新潟の花イベントが盛りだくさん! みなさんは、いくつ回れるかな?



詳しくは

NEWS 4

外山康雄 野の花の水彩画展 平成24年3月7日(水)～25日(日)

恒例となった展示の一つ、南魚沼市在住の画家外山康雄さんの水彩画展を今年度も第3温室住宅内展示スペースで開催します。

外山さんが題材とするものは山野などに生えている野の花や木の実などで、実物のように繊細に描かれたその姿は見る人を和ませてくれます。南魚沼市のギャラリーには作品とともに実物が展示されており、特徴をとらえながらも芸術的な描き方には驚くばかりです。県内外でも個展が開かれその魅力は多くの人をひきつけています。

今回は、今までにはなかった山菜などを含む作品約50点を展示しますので、お楽しみに。

外山康雄さんのグッズを温室レストラン(入園無料エリア)で販売しておりますので、ぜひお立ち寄りください。

(永井明子)



山菜の作品より 蕨(ワラビ)、根曲竹(ネマガリタケ)

NEWS 3

明治時代には一鉢1000万円! 斑入りヤブコウジ展 平成24年1月2日(月)～22日(日)

ヤブコウジは新潟県にも自生する常緑の灌木です。江戸時代の享保(1716～1736)末ごろから葉に斑が入る植物が人気を博し、寛政年間(1789～1801)には京都で斑入りのヤブコウジが流行しました。

明治20年ごろ、新潟市秋葉区で斑入りヤブコウジが流行りだし、明治27年には投機の対象となるほど売買が過熱し、全国に広がりました。

このように流行したヤブコウジも、現在では新潟県と島根県の数名によって保存されているにすぎません。今回の展示では、クリスマスローズの品種改良でも有名な新潟市の木口一二三さんの協力により、貴重な品種を公開します。明治時代の狂乱を呼び起こした品種から木口氏作出の最新品種までをじっくりとご観賞ください。(永井明子)



「御代錦」





新潟市に見られるナニワズ
Daphne kamschatcica var. *jezoensis*
(3月末撮影)

新潟の植物

ナニワズ

鬼を縛れるほど強い繊維をもつというジンチョウゲ科オニシバリの変種。太平洋側は福島県、日本海側は福井県より北に分布する落葉低木です。

新潟には冬を越えて雪解けのころに見られる花が多くありますが、ナニワズの花は黄色で目立ちます。オニシバリ、ナニワズともに、花が終わると落葉して、夏は葉が見られないため、ナツボウズとも呼ばれます。不完全な雌雄異株で、雄株にも実をつけることがあります。熟した実は赤く、葉がないのでこちらも良く目立ちます。葉は秋に出て、つぼみを着けて越冬します。

なぜ北部に分布するこの植物に「ナニワズ(難波津*)」と名づけたのかはわかりません。古今和歌集で知られる「難波津に 咲くやこの花 冬ごもり 今は春べと 咲くやこの花」の歌には多くの解釈がありますが、そのまま訳すと、「春が来たと、この花が咲いたなあ」となり、早春の林床でいち早く花を咲かせるナニワズに当てはまります。

(林 寛子)

※難波津…大阪付近の港のこと

みんなの趣味の園芸セレクション

アオキの雌雄は蕾で分かる?

アオキというと北側の便所の脇に植えられているようなどうでも良い木のようなイメージがあるのですが、幕末に植物採集のために来日したプラントハンターのフォーチュンは「私の訪日の目的の一つは、イギリスの在来品種のアオキの雌木のために、雄木の品種を手に入れることであった。」と書いているように大変な価値のあった植物でした。

当時のイギリスでは常緑で耐寒性があり、スモッグにも強いアオキが広く栽培されていましたが、フォーチュンが「日本の西洋ヒイラギ」と高く評価していたにもかかわらず、雄株がないために結実しませんでした(以上引用はフォーチュン「江戸と北京」1863年、日本語訳三宅馨、廣川書店刊-現在は講談社学術文庫から「幕末日本探訪記 江戸と北京」の書名で出版)。

今の時期の実は緑色ですが、これから春にかけてだんだんと赤くなってきます。春に咲く雄株の花には雄しべだけ、雌株には雌しべだけがあります。雄株の花序は大きく80花ほどをつけますが、雌株には10花ほどしかつきません。

こんなことを思い出しながらヒメアオキの自生を見ていたら、雄と雌で花数が違うのだったら、蕾の形も違うのではないかと思いつきました。そこで早速蕾を比べてみました。

予想どおり、写真のように、左側の雄の蕾は丸くて大きく、右の雌の蕾は小さく平たいことが分かりました。

これで花や実のない時期でもアオキの雌雄が分かると思います! 発見の日でした。

(倉重祐二)

※みんなの趣味の園芸 2010年11月22日 新潟県立植物園 植物園日記より転載



4月のヒメアオキ。果実の赤と葉の緑の対比が美しい。蕾は雄株(左)の方が大きい



左の雄株には雄しべしかない花が80花以上、右の雌株には雌しべしかない花が十数花つく

NHK出版「みんなの趣味の園芸」の最新の植物園日記は<http://www.shuminoengei.jp/?id=3078>でご覧になれます。また、昨年度分の日記をまとめた電子書籍を無料で公開しています。<http://p.booklog.jp/book/32962>



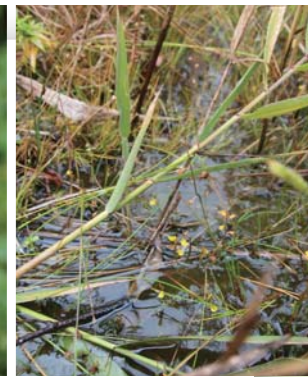
ナンブアザミ



エゾリンドウ



クロバナヒキオコシ



ミミカキグサ

友の会通信



中峰観察の様子



集合写真

秋の日帰り観察会

10月23日に奥胎内方面へ観察会に出かけました。あいにくの雨模様で、散策できるかが心配でしたが、バスを降りるとなんとか小止みになり予定通り行くことができました。

飯豊連峰の足の松尾根登山口付近で見られるブナ林とユキツバキ群落が午前の散策のスタート地点です。石沢会長の説明を聞き、豊作だというブナの実を観察して楽しみました。登山口を折り返し、雨に濡れてつややかな紅葉の風景を見て、観察できる植物を学びながら下りました。

午後の散策地である中峰自然環境保全地域にむかうころは、もう降りられないかと思うほど雨が再びひどくなりましたが、到着するころにはまた上がりました。ここでは、リンドウやミミカキグサの花を見ることができました。

ブナ林とユキツバキ群落は新潟を代表する植生ですが、伐採などにより県内では減少してきました。また、中峰自然環境保全地域は開発を免れて守られてきたものの、帰化植物であるセイタカアワダチソウの侵入が見られるなど今後の環境の変化が心配されます。残っている貴重な自然を知り、守っていこうという気持ちを改めて感じられた観察会となりました。

参加者の声

- ・ブナの芽吹くころなど、ちがう季節にまた来てみたい。
- ・ブナの実、殻が木になっていた光景が印象に残りました。
- ・中峰のエゾリンドウの紫色の濃さに惹かれました。

1月24日(火)から2月12日(日)まで、植物園の第3温室住宅内展示スペースで、友の会による展示を行います。今年度の活動、観察会での写真などを展示する予定です。ぜひご来場ください。※期間中は休館日がありますので、裏表紙のカレンダーでご確認ください。

新潟県立植物園 友の会 会員募集

友の会会員を随時募集しています。興味のある方は友の会事務局(新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465)までお問い合わせ下さい。

年会費(4月より翌年3月まで)

●個人会員 2,000円 ●ファミリー会員 2,500円 ●賛助会員(一口) 10,000円

会員特典:植物園観賞温室の入館無料、植物園だよりなどの送付

新潟県立植物園 友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつづやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail:bgn.tomonokai@gmail.comまで、携帯電話からも投稿できます。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員 くわした達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています

●齋藤不動産 ●株式会社アート環境設計 ●株式会社アート